

# 瀬戸内海 経済レポート



躍進する水島工業基地  
と三木岡山県知事

創刊号

■ 瀬戸内圏構想と地域開発 磯村 英一

■ 激動期迎えた県下中小企業（対談）

社名					
業種					

空に / 海に / 陸に / 街に

 西備バス

# 地域開発に貢献を

通商産業大臣



福田 一

本格的な「開放経済体制」を迎えたことし、わが国の重要な課題の一つは、新産業都市建設を中心とする新しい、国づくりであります。ご存じの通り戦後の日本経済は京浜、中京、阪神、北九州などの既成の下葉地帯を中心に発展してきました。しかし、最近これら既成工業地帯は産業の過度の集積の結果、用地、用水の不足、産業公害の発生など種々の問題が生じてきており、このような困難を打開し、これからの日本経済発展の中核となる地域を建設するために、本年から新産業都市の建設がスタートすることになりました。その代表的な一つが、水島を中心とした岡山県南であることは、いままら申し上げるまでもありません。

このようなときに当たり、岡山県に社団法人瀬戸内海経済研究センターが設立され、経済界、学業を中心とするトップレベルの顧問による研究会、講演会、あるいは経営セミナー開催のほか、「瀬戸内海経済レポート」を発刊して、地域開発の問題点を掘り下げるとともに、岡山県下経済の情勢を分析されることは、まことに時宜をえたものでありまして、ご同慶にたえないところであります。瀬戸内海経済圏の中核とすることを期待してやみません。



株式会社 中国銀行  
取締役頭取 守分 十

今回、岡山県南地区が新産業都市に指定されましたことは誠に同慶にたえないところであります。三木知事を始めとした関係各位の本年にわたるご努力に對しまして、心から敬意を表する次第であります。あまたかこれと時を同じうして夕刊新聞社、野津社長主宰のもとにおきまして、社団法人瀬戸内海経済研究センターが設立され、その機関誌として、「瀬戸内海経済レポート」が創刊されることになりました。これは誠に時宜をえた企画でありまして、野津社長のご着想に先ずもって敬服申し上げますと、今後のご発展を心からお祈り申し上げる次第であります。

瀬戸内海を打って一丸とするという果敢な経済構想につきましても、従来よりそれぞれの立場から論ぜられてきた中에서도、何と申しましても、すべてが新産業都市指定待ちといったムードでありました。ところがいよいよ今回、その決定を見た次第でありました。これからは議論もさることながら、いよいよこの画期的な物と金と人による一大計画が瀬戸内海を中心として、数地区にわたって徐々に展開されていくものと思っております。

もちろん当県水島地区におきましては、すでにその開発もかなり進んでおります関係上、今回の指定地域

中におきましては、その先達的な存在であることはよくご承知の通りであります。したがって今後は、計画の進捗につれて中央と地方との連絡がいろいろな形で結ばれていく過程において必ずしも問題が生ずるであろうことも今から予想されます。いやむしろ難問が山積みするであろうと、今から十分覚悟しておかなければならないと思っております。

野津社長はさういふ難問の解決に当たっては、従来より民間人として最も前線になる方々の一人として、高く評価されている人でもあります。この人の着想によつて創刊された「瀬戸内海経済レポート」は、この意味において恐らく私の期待を遥かに超えているものがあるの提供して下さるものと信じています。完備した取材網を駆使して得た事実に対して、正しく判断された論説、解説、報告の致々、けだし群小の意見を止する程のものと思っております。

レポートの発刊を前にして、私は今から大いなる期待と喜びを感じている次第であります。願わくばこのレポートが、瀬戸内海経済圏の行手を示す得るの一指針として現実に役立ちますよう、野津社長のご努力、ご協力を心からお願いたしました。レポート発刊のご祝詞といたします。

# 瀬戸圏構想と経済開発

東京都立大学教授



磯村 英一

わたくしは新産業都市として、瀬戸内海の沿岸に、岡山、水島をはじめとして、東予、大分、徳島などの地区の指定が予定されたときに、それはバラバラでは経済的効果のうすいこと。これらの地区が相互に提携して、いわゆる「瀬戸内海経済圏」をつくり、近畿圏や首都圏に相当する総合的行政措置をする必要を指摘した。そして幸い各方面の高い関心をえたのである。

たまたま政府は、新産業都市十三地区のうち、水指定をする地区として、大分・鶴崎、日向・延岡、東予・岡山・水島そして徳島という五つの地区をまず第一に選び出した。これはいうまでもなく、新産業都市のうちで、これらの地区の重要性が認められたからであるが、同時にわたくしの提唱した瀬戸内海圏の構想が、これによって完全に裏書されたということもできる。なぜならば新産業都市の開発は、全て瀬戸内海ベルト地帯に集中されようとしているからである。識者によっては、この五地区の水指定をば、いささか偏向しているように見る向きもあるが、必ずしもそうではない。むしろ新産業都市を全国にバラまいたところに、政策の不徹底があったのであるが、今回の第一次指定が集中的であったことに、更めて新産業都市の意義をまず見出したいのである。したがって関係地域にとって重要なことは、これらの五つの地区が、瀬戸内海圏のなかの一体的開発計画としておたがいに協力することである。もし集中的に指定された五つの地区が、これまでのように各々独自の計画を推し進めようとするば、それはいささか効果のうすいものにならざるをえない。

- ① 新産業都市が、瀬戸内海圏以下「瀬戸内」とよぶとして開発されねばならないのに次のような理由がある。
- ② 瀬戸圏地帯は、日本の未開発地域であること
- ③ ここで瀬戸圏というのは中国の大部分と四

国をふくめていうのであるが、これらの地域は、一方では阪神圏、他方では九州圏の各先進経済圏の中間にあって橋渡し的な役割りをしてきたきらいがある。もちろんそのなかに岡山、広島のような発達した都市があるが、それは山陽街道に沿ったいわゆる沿道都市であって、それらが各々経済圏の中心となるような役割りまでは果たさなかったといわざるをえない。

④ いわんや四国や山陰地域となると、各々が阪神または九州の経済圏に從属して、全く主体性を欠いた経済地区であった。ときには瀬戸内海地帯といわれても、それは沿岸地域の零状の地域だけであって、どこに中心性を発見することもむずかしいようであった。

⑤ 瀬戸圏は日本の無災害地区であること。瀬戸圏の内縁——沿岸地域を意味する——はわが国において、もっとも災害の少ない地域である。その条件がかえって地区をば開発の外においたのは、むしろ皮肉の現象とさえいえる。むしろ圏の外縁である四国の南部地域や九州の大分、宮崎のような外縁地域が再三の災害に襲われて、その復旧によって地域の開発が進められてきたという状態である。この二つの内縁、外縁の地域が一体となっていてこそ、はじめて経済圏としての価値を生じてくるのである。

⑥ 阪神経済圏の発達と設備の設備にあつたこと。太平洋戦争を前後として、阪神の経済圏は成長の一途を辿っており、瀬戸圏地域は、主として阪神圏への労働力の供給地として、また阪神経済を支える消費地として極めて消極的な立ち場におかされた。ところが最近阪神圏は圏内が行き詰まるばかりでなく、首都圏の発達によって、経済地盤の沈下をみるようになってきた。ようやくその頭打ちの状態に近づいてきた。その打開のためには、むしろ隣接地帯に、強力な経済圏をもって関西経済圏とし

での発展が期待されるようになってきたのである。

以上のような情勢は、必然的に瀬戸圏が開発されるべき方向を示すものであり、同時にその開発によってこそ阪神、九州を含めた関西経済圏が、首都圏に対抗して、日本の地域開発を、地域格差のないものにする可能性が出てきたわけである。

そのときに際して、新産業都市の選定が行なわれた。それが瀬戸圏内に集中したことは、実にタイムリーなことといえる。それだけに、今後の計画は、あくまでもその推進を「瀬戸圏内の構想」としてなすべきもので、新産業都市の選定に当たって見られたような、過大な競争のときは斯くて排除しなければならぬ。

そこで今後瀬戸圏をどのように産業開発にむすびつけるかの方策を示してみよう。

〔一〕瀬戸圏産業開発のマスタープランの作成  
指定五地区の計画は、これを圏開発の上からみるといざいとして相互に重複して地域開発の効果をもぐもぐがある。

直ちに若干の専門家をathamに動員して、瀬戸圏構想を基礎にしたマスタープランをつくり、そのなかで各指定地域の計画を再検討すべきである。

ちょうど首都圏整備委員会が圏内のマスタープランをつくり、都県や市町村がそれに伴って各々の計画を進めている事と同じ意味である。

〔二〕瀬戸圏整備協議会の設立

近畿圏は首都圏に対抗して法律による委員会をつくり、マスタープランの作成に進もうとしているが、瀬戸圏についても関係県市町村の議会の協力で国会に同じような組織の立法化を推進すると同時に、とりあえず瀬戸圏整備協議会をつくり、新産都市、工特都市の関係長はもちろん、県知事や関係地区市長らを加えた協議会をつくり、同時に前述のマスタープランづくりを専門家に委嘱するなどの努力に進むべきである。このような体制が開発の鍵となる。具体的なには圏内新産都市の開発に大きな影響があるものとするべきである。

〔三〕中国縦貫、四国開発道路等の再検討

これまで中国、四国などの構想のためには中国縦貫や四国横断などいろいろな道路計画があるが、それらもいずれも阪神と九州との中間地帯を結ぶものとして計画されている。山陰や四国南部などを、瀬戸内海沿岸と密着させようとする道路計画は、あつても後進してはいるが、これらに瀬戸圏をば、中間地帯と見る誤解がひそんでいた。今回新産都市



の指定を合理化するうえからも、五つの地域の連絡と、効果波及地域である山陰や四国を結ぶ道路建設の重要性が浮かびでてくる。関連して、現在中国と四国を結んでいる宇高ルートに役割も新しく認識され、架橋促進の合理性がいつそう強く認識される。

〔四〕新産五地区の機能的分化の検討

新産五地区と岡山や播磨など工特地区は、おたがいにその機能に即応した産業開発をすべきである。水島の計画がよいからといって、各地区が全く同じ機能をもつことは其の間にない。水島には、そのために前述のマスタープラン作りの根柢方針として、各地区が機能的に分化するような方法が打ち出されるべきである。

〔五〕瀬戸圏核心地域の形成

新産都市五地区は、前述のように各々特徴のある開発が進められるべきであるが、瀬戸圏としては、やはり二、三の中心地域が形成されるような方向が望まれる。その地区が広島であるか、岡山であるか、あるいは四国の地区であるかは別として、その計画は、少なくとも阪神や京浜に相当する「都市づくり」であることが望まれる。その「拠点からする」と、岡山は倉敷等と合体して、「百万都市」をさつる計画が進められていたが、当時のいきつては別として、更めて瀬戸圏内の中心都市として、呉南広域都市の建設が再検討されてよいのではあるまいか。否それを新しく再出発することこそが、瀬戸圏構想の実現に大きな重大をもつことである。

以上のような条件の実現は、日本に新しい形の産業基地をつくることであり、京浜、阪神の行き詰った産業地帯あるいは充実しようとする中京地域に対して、第四の新産地帯の開発であり、その推進は開放経済を迎えるわが国にとって全く緊急な計画である。

しかしそれが大切であると同時に、これまでもの産業計画が、いつの間にか陥つたような落し穴には充分に注意する必要がある。わずかな数年前に専門家たちは四日市こそ理想の工業地域になると確信していた。しかしそこは今日では公害都市のモデルケースである。「理想」を欠いた都市計画の例である。

その点からして、わたくしは、瀬戸圏計画の理念として、「インダストリアル・パーク——産業公園」がその骨組であることを提唱したい。自然の景観をそこなわないで、条件調整が優先した工場設計であることを絶対の条件とするものである。瀬戸圏について忘れることのできないのは瀬戸内海そのものが日本のもっとも誇るべき「国立公園」であることである。そこに新産都市が設計されるのであるから、当然それは「産業公園」であるといふべきであり、内容そのものが公園にふさわしいものでなければならぬ。「瀬戸内海」の「高い理想」を捨ててこそ、日本の絶景「瀬戸内海」をば、産業地帯として開発する理由があることと思うのである。

# 激動期迎えた 県下中小企業

## 対談

中小企業金融公庫岡山支店長  
黒田 俊 雄氏  
岡山県経営者協会事務局長  
中道 宏氏

開放休制をひかえた日本経済は新しい激動期に突入しようとしているが、躍進する水島工業地帯を中心とする岡山県南の新産業都市指定によって、瀬戸内海経済圏の構想は本格的スタートを切ることになった。希望は大きい。だが、困難な課題もある。得業日本産業の主要な柱となる岡山県の産業、金融、労働、中小企業の前にはどんな問題が横たわっているだろうか。

**中道** 日本経済は現在賃金問題で大きな岐路に立っているが、これは岡山県下の中小企業者にとっても重大な関心事となっています。ことは近畿都市の正式指定も決まり、岡山の経済界も激動の年だと思っております。

**労働不足と賃金上昇**

**黒田** ええ、昨年の暮れごろから児島地区の縫製業者も深刻な様相を呈してきています。当地のある会合へ出席したさい、人手不足、賃金の上昇という問題は低生産性がガンになっているわけで、これをまず解決すべきだ、といったところ。機械化、合理化を行なうにはなんといっても金が先決だ。金融は第二次的なものだとはいわずに、と追いつめられ、逃がしてくれませんでしたよ。

**中道** そうですね。労働対策、設備の近代化をすすめていくためにはどうしても強い金融対策というものが必要になってきますね。中小企業での若年労働者不足という問題は全く大変なことです。一人の労働者を確保するのに平均五万円はかかっています。社長が手みやげまで

もって遊えに行くところがあるそうです。そのままではなくても十分従業員を確保できる会社は、必ず十分な施設を整え、労働管理がゆきとどき、いい人間関係ができてますね。福祉施設をよまなくていいことには決して人は集まってくれません。

**機械化へ資金を**

**黒田** それをどのようにやっていくかということですね。労働力不足をカバーするためには機械化、合理化、近代化のために資金を投入すべきはもちろんです。それが労働力だけに目を奪われて福祉施設に貴重な資金をつかい、しかもデラックス化を誇るというのでは大逆なコストダウン、工種の減少になるわけですね。



語る黒田(右) 中道の野氏

**中道** なるほど。さっそく春斗がはじまるわけですが、たまた力関係が決まるというのではなしに、経済全体から考えていかねばならないと思うのです。大切なことは「賃金を生み出す母体を体質改善していく」ということではないでしょうか。

**黒田** そうですよ。合理化へ向けて節約しなければならぬのに、労働者不足という目先のことでばかりにとらわれて、右往左往していたのではいけませんね。

**中道** 中小企業の経営者が、生産の合理化を第二義的に考えるのは、金融機関が中小企業をシャットアウトしているからではないでしょうか。

**黒田** 生産部門へ金を集中的に出すようにすべきだが、経営者にすべからず賃金の不足という圧迫感が非常に強い。また金融機関としても、過去の業態といふものを分析しなければ、経営者のビジョンをそのまま受け入れられないというところにならずかしがある。中小企業は資本が小さいという弱さ、その上大企業には人をとられ、マイナスイメージのサンディウィッチになっているようなものですかね。

**経営理念確立せよ**

**中道** そうですね。だから他力本願でなしに、経営者自身がもっとなかりした姿勢をもつことが根本ですね。ビジョンをつくる前に経営理念を確立しなければなりませんね。

**黒田** 中小企業の人々たちは金融機関は雨の日に傘を貸さずに天気の日には貸したがる。とよくいいますがむずかしい問題です。我田引水になるかも知れないが、政府機関としては、前向きな企業に対してはかなりよくみているつもりです。問題は経営者としてのマインドをどうもつかうということでは無いでしょうか。だからいくら現在業態がいいからといって、経営者が眠っていて情性経営をやっていたのではマインドがいいと

いうことにはならない。そういうところへは貸したくありません。中道 私は最近そうした経営者のマインドはよくなってきていると思っています。いろんな会社にも積極的に参加してきているし……しかし最近中小企業の賃金が非常に上がってきているのは問題ですね。大企業との格差がちなまるのはいいことだが、賃金のみが接近したのでは、不安定になるわけですね。

生産性向上が根本

中道 三十六年の夏以降、中小企業のペ・アの幅が急激に伸び、生産の伸び半を追い越し、現在では資産を食いつおしている格好です。本格的な開放経済を迎えようとしているなかで中小企業はこれまで以上のかどうか真剣に考えねばならない時期にきていますとも。

黒田 生産性向上の上ともなわない人件費の増加は必ず採算悪を招く結果となる。これをどうカバーしていくかということですね。

中道 人件費の増加分を価格に織り込めるものもあるが、大企業と対抗している商品はそうはいかない。だから賃金問題にしても、数字を出して従業員の一人一人に納得してもらうことが大切ですね。また経営者の方も、いたずらに物見遊山の海外旅行などは慎むべきではないでしょう。

生産性向上が根本

黒田 経営者自体がもっとしっかりした経営態度をとらなければ、労働者は「なにをいっているんだ」ということになる。「意見するババの胸にペニのあと」という川柳のとおりです。

中道 労使ともども、もっと直接密着に力を入れ、生産性を上げること努力しなければ、中小企業の将来には破たんあるのみですからね。

黒田 そうですとも。アララックス即生産性の向上にはならないということですよ。

中道 同意ですね。

黒田 金融の話にもどります。引き締め第一弾として昨年十二月六日に預金準備率が引き上げられ、第二弾として一月十日に新窓口規制が実施され、一月の貸し出しは前年同期の一律減となっているし、さらに第三弾として公定歩合の引き上げが行なわれるのではないかと不安感が一般にただよっています。しかし消費水準は依然として高く、またオリンピック・イヤーとして一層ムードをおくる要素があります。国庫収支の改善という面から輸出産業の融資については優先的に行なわれようし、底ささえの機運も出ており、私は景気そのものはそう悪くならないと思っています。

ヤマハピアノ  
音楽社

ヤマハ音楽社 代表取締役社長 黒田 隆夫

それ引き締めだ、不景気がくるのだと、心理的にまいてしまわれないこと。必要な設備の近代化、合理化にはふんどしをしめ直してかかるということですね。

税制改正をいそげ

中道 悲観、楽観論が入りみだれてはいるわけですね。話が変わりますが、わたしは中小企業と規制について意見があるんです。中小企業もって自己資金をたくわえられるような規制に改める必要があると思うんですね。

黒田 昨年の夏ごろ引き締めムードのゆるんだ時点で、中小企業者のアンケートをとったところがあるんですが、最も大きい問題として、「労働問題」と「税制問題」が出てきました。「金融」なんか後の方なんです。現在ははやや重点が変わっていると思うのですがこれには驚きま

した。

中道 それは非常に興味深い問題ですね。労働問題が最上位にきたのは人手不足、賃金の上昇ということからでしょうが、中小企業者もそこらへんで、「いくらでも安く使える人間がいるんだ」という観念を捨てなければなりません。「人を大切にしなければいけない」という考え方も、労働管理の根本ですよ。ただ「人が足らんから集めるんだ」というのでは、すぐ逃げられてしまう。人を大切に考える方は、しだいにふえてきていますが、そういう企業は必ず伸びてきますね。

労働者も義務を果せ

黒田 そこにも問題があるんです。アメリカでは非常に労働者を大切にしますが、一方労働者の方も勤務はきちんとやる。勤務中に遊んでいる人間なんか。ところが日本では、平気で仕事をさぼっている人間が少なくないでしょう。これじや企業は伸びないですよ。労働者も要求すべきものは要求するが、義務も忠実に果たす、という考え方がぜひ必要ですね。労働不足から半促進というのは困りますね。

中道 そうですね。従業員にもっとワークマンシップ・トレーニングをすべきですね。それに若手の不足と反対に余っている中高年層の再教育を実施して、人間として企業に貢献できるようにしていくことも大事ですね。

健全なマインド

黒田 企業の公共性という意味においては中小企業も大企業も全く同じ立ち場にあるわけです。「健全なマインドをもつ」ということですね。ドロ船でもうまくあつれば目的地へ着ければ雇われてもらいます。手形サイトが伸びきりましたこところへ引き締め問題、外的要因が

加わり、中小企業には苦難の年だが慎重ムードで帆をあやつることでね。

**中道** そのことでここの地場産業には、具体的にどのような影響がでてくるのでしょうか。

**黒田** 若しいのは耐火レンガでしょうね。鉄鋼メーカーの設備拡張のためらいから万年不況の様相を呈しはじめており、生産量も三十六年のピーク時の六五割に落ちている。例外はあるが手形サイトも二百日が常識になつているといわれています。

**中道** 昨年未には側産が出たそうですが。

#### 危機感は一層深まる

**黒田** 備前窯業ですね。あれは放慢経営が原因なのですが、しかし児島地区の糖製業者も従来のように順調にはいかない。学生服の需要がギリ食のうえに、昨年秋から手をつけた防寒物の見込み生産が多過ぎ、暖冬異変で売れ行きが著しくCクラスには資金ぐりに苦しんでいるものもかなり見うけられます。金融引き締めで二、三月には各業界に危機感が深まるでしょう。

**中道** ゴム履き物などはいいのですか。

**黒田** 昨年の長雨がたたり在庫は多いようですが、五輪の年でもありそう心配はないでしょう。自動車も下請けの設備増設が一巡し、受注をこなすだけの体制は整っているし、金ぐりの心配はないと思います。しかし農機具関係は総需要が一巡した今目、新品種でも出さねば躍進はむずかしいでしょうね。

**中道** とところで、新産業都市としての岡山産業界の今後の果たさねばならない役割は非常に大きなものがありますね。

**黒田** 地域開発に全面的に協力するとう意味において、経営者も機械化、合理化へ一長期的展望を立てて努力していくことが必要ですね。(おわり)

## プレハブ住宅合戦 せりあう大手七社

「住宅の革命」として注目を集めているプレハブ住宅は、全国に大小約五十のメーカーが乱立、プレハブ住宅合戦を展開している。岡山県下にも、住宅金融公庫指定のメ

ーカーとして、大和ハウス工業、積水ハウス産業、松下電工、日本鋼管、日本電建、川鉄建材、日本プレハブ建築などが進出。このほど、大和ハウス工業岡山支店(都窪郡古備町、中小路昭二支店長)が、大和ハウス友の会、岡山分会を組織して販売戦線に一步先んじた構えを

みせ、岡山土地倉庫(岡山市上石井、末長勢一社長、資本金五千二百五十万円)が、日本プレハブ建築の岡山県代理店として営業を始めるなど、はげしい販売合戦を展開しそうな雲行きをみせている。

プレハブ住宅は、建設のスピード、不燃性、堅ろう性、スマイルな外観などの特徴を持つ。ディレイドの近代的な住宅。通産省でも取り上げられ、プレハブ住宅試験機関の充実、規格の統一、技術の開発、メーカーの整理統合といった基本政策が示されている。

大和ハウス岡山支店の「大和ハウス友の会」岡山分会(理事 長牧野正道野村証券岡山支店長)は、同社製品、ダイワハウスを、会員を通じて、広く一般にPRしようというの、がねら。会員は、株主、得意先、婦人会など中心に、約五百人とな

かなかの盛況。また、同支店の岡山事務所(岡山市大供、県木材会館四階)を、このほど岡山市大供ロータリー東側に移転、敷き地内に「ダイワハウス」のモデル住宅を展示するなど売らんかなの構えをみせている。

大和ハウス工業(本社大阪市、資本金二十八億二千万円、石橋信夫社長)は、前期(九月期)決算で、受注高約九十億円、純利益五億二百万円を計上。月平均五百住宅を売り上げている。

岡山土地倉庫は、倉庫業をはじめ、不動産業、運送業、自動車販売業など、多角経営をめざしているが、さらに、この住宅販売業に乗りだすことになったもので、自動車(トヨタ)の販売網を通じて、当面は、月平均五住宅の売り上げを目標にしている。

日本プレハブ建築(本社東京、資本金四億円、安西正大社長)は、富士製鉄、小野田セメント、昭和電工、トヨタ自動車、日立製作所、日立化成、丸紅飯田の出資で三十五年に設立された会社。埼玉県北足立郡の戸田工場で生産を行なっているが、近く水島に工場を建設する計画。



喫茶 筑紫

岡山県中倉町(山陽七六町)  
TEL:0749028482

# 「化成水島」を設立

## 七月操業 建設工事急ピツチ

三菱化成工業株式会社（東京都千代田区丸の内二丁目四、柴田周吉社長）は三十八年七月から倉敷市瀬通り三丁目に建設中の石油化学工場を本社から分離し、株式会社化成水島を設立、一月二十日登記を完了させた。

化成水島として独立させた理由は、新工場の設備増設に対する投資を容易にし、全社的な投資効率を高めるためで、わが国の大規模な石油化学企業のひとつがこうした別会社形態をとっている。

同工場の建設は、旧福田千祐の九十九万九千平方メートル同地区松江の農地二十三万一千平方メートルを確保し、昨年七月から第一期工事として旧福田千祐の二十六万三千平方メートル、ナフサ分解工場をはじめ、アクリロニトリル、アセトアルデヒド工場、第一発電所、純水装置、酸業工場の一建設に着手、六月末完成、七月操業めざして工事は急ピツチですすめられている。

土木建築工事関係は現在すでに八五割ほどできあがり、機械類も九五割を発注済みで、掘え付けも四〇％方終わっている。このほか対面の中国電力水島火力発電所の灰捨て用地約九万九千平方メートルの払い下げを受け、二千トンていどの船舶が接岸できる港湾設備を行ない、冷却用水に必要な海水取水装置（スタート時は日量十五万トン）や供給施設建設もすめる。これから第一期工事の投下資本は約二百億円が見込まれている。

建設請負い主要業者は鹿島建設、千代田化工建設、日本揮発油、大林組、大木組、竹中工務

店、大成建設、大東建設、栗田工業、新三菱重工三原製作所、新妻建設、日本動力、戸田建設、中国電気工事、石井産業などで、この下にさらに協力業者が加わり建設がピークに向かうと労働者数は二千人近くになる。鹿島建設は主として土木建築と機械据え付け、千代田化工建設がエチレンプラントおよび原料、製品の輸送パイプの配管、日本揮発油がアセトアルデヒド工場関係を受け持っている。

主原料は同系会社である三菱石油水島製油所からナフサの供給を受けることに、なっており、立地的にも非常に恵まれている。このナフサを熱分解して得られる反応性に富んだオレフィン原料とし、エチレンからアセトアルデヒドを製造これを日本合成化学工業に供給し、各種アルデヒド誘導体製品を製造する。また自己技術による高密度ポリエチレン製造も行う。

プロピレンからはアクリロニトリルおよびアセトンを製造し、残ガスからはアセチレンおよびメタノールを製造し、アセチレンは日本ポリマー工業へ供給、同社は日本新積向けビニル用ポリアルを製造する。分解ガソリンは三菱石油へ返送し、燃料油は自家用消費に当てる。第一期計画の設備規模はエチレンにして年間四万五千トンを予定している。

将来計画としては需要の伸びに応じて工場を拡張し、エチレ

新しいお買物は  岡山商工会館デパート

ン年間十八万トンのナフサ分解設備、これに忠じた総合処理設備を建設する予定。

一方、工場建設とともに福田地区広江に二十一万四千五百平方メートルの社宅用地を確保し、独身寮二棟（百三十二人収容）、一般アパート二棟（四十八世帯収容）と精舎会館を建設、さらに三月末までには一般、課長、部長クラスの社宅四十四戸を建設する。ついで六月までにはもう一棟宿泊、食堂施設を完備し、最終的には独身寮三棟のほか五百二十世帯収容のアパートを建てる計画で、用地建設には大木組、戸田建設、大林組、竹中工務店などが当たっている。

操業開始時の従業員は約六百人で、地元で女子工員百人、男子一般工員百六十人の採用をほぼ終わり、今月中旬ごろから三菱石油水島工場で実習をはじめることになっている。四月には女子事務員五十人が入社する。

同社の決算は毎年一月三十一日。新役員はつぎの通り。

- |       |        |
|-------|--------|
| 取締役   | 柴田 周吉  |
| 取締役社長 | 佐藤正才夫  |
| 同 副社長 | 鎌島 秀雄  |
| 専務取締役 | 岩崎 郁夫  |
| 同     | 長谷川隆太郎 |
| 常務取締役 | 杉山 徳三  |
| 同     | 長沢不二男  |
| 同     | 牧田 祥平  |
| 同     | 末田 秀夫  |
| 同     | 北沢 四郎  |
| 同     | 大塚 直次  |
| 同     | 森元 芳   |
| 同     | 多田 孝俊  |
| 同     | 鈴木 永二  |
| 同     | 塩田代子郎  |
| 同     | 堀 健吉   |
| 同     | 林 寛規   |
| 同     | 小林 寛邦  |
| 同     | 久保 謙雄  |
| 同     | 太田 哲三  |

**岸本時計店**  
岡山・銀座 電話〇五六五番



## スーパー激戦地へ

岡山県下のスーパーは約六十店。水島臨海工業地帯の躍進、新産都の指定と、県勢の大きな発展を見込んでは、県外大手資本の進出もしきり、競争の激戦もようは、弱小スーパーの整理をすため、大規模化、テラックス化を迫っており、スーパーも新しい段階を迎えたといえる。

## 躍進岡山を狙う

## 大型テラックス化

岡山市内のスーパーは、大小合わせて十八店。昨年末、年間八千万円を売り上げていた大丸スーパー(岡山市大供、山原広恵社長、資本金百万円)が倒産、大丸スーパー(岡山市)が倒産、山崎多喜志社長)も三十七年十一月スタートらしい一年足らずで店を閉めた。しかし、総小売販売額に占めるスーパーのシェアは、岡山市内の場合、約三割。とくに、八〇%までスーパー進出の余地があるといわれる食料品のスーパーでは一〇%にすぎず、年商一億程度のスーパーなら二十店の進出まで可能だといわれる。

この岡山市に、将来の発展を異議して、十月ごろ、日本一のスーパー、ダイエーが進出するのをはじめ、地元織姫卸し、小売業者と県外大手メーカーが提携した、スーパー、スズヤ、さらにも、三大手スーパーの進出ももうわさされるなど、スーパー戦国時代を現出しような勢いだ。

年間売り上げ百三十億円と、日本一を誇るダイエー(西宮市森下町、中内功社長)は、岡山市西山下のチトセ映画劇場跡に、七月中完成予定のビルを借り、食料品をはじめ、衣料、洋品、日用品、電器類など総合スーパーとして売り出しを始める。このビルは、チトセ劇場(八名靖直社長)が、一億四千万円をかけて建設するもので、地下一階、地上五階(予定)のべ

面積千八百七十平方メートルのビル。一と三階にダイエーが入居、地下は名食街、四階は貸し事務所、五階は遊技施設が予定されている(八名社長の話)。

スズヤ(岡山市新西大寺町、資本金二千五百万円、具知広文社長)は、岡崎(岡山市東田町、資本金二千五百万円、具知広文社長)と地元の織姫関係小売り業数社、郡屋製糸の商事会社郡屋産業(東京都中央区、資本金二億円、原谷一、二郎社長)が、四、二、四の割合で出資したメーカー、卸し、小売りの共同化という新しいタイプの経営形態。従来のスーパーの要素に、百貨店、専門店の要素を取り入れ、ハヤシエンスのもの、ポリウムのある陳列商品、ムードに満ちた店内をめざしている(藤原事務の語)店舗は、新西大寺町商店街に建設中。工費一億二千四百万円、鉄筋四階建て、のべ面積千四百九十平方メートルで、三月末には開店。織姫関係では消費者の六〇%を占めるといわれる若い層、とくに女性をわらわっており、一階は実用衣料、二階おしゃれ用品、三階服地、イージーオーダーと、実用品からトップモデルまで、を売り出す。売り場面積は千六百九十九平方メートルで、初年度の売り上げ五億円を見込んでいる。

これら大型スーパーの進出に市内の小売り業界も、協業化、共同化と経営の合理化をせまら

冷凍設備の中心  
富士冷機岡山株式会社  
岡山 大供105・電話(2)3545

れている。衣料品のスーパーとして古い地盤を持つ福屋(岡山市中之町、資本金五千万円、佐藤小房社長)は、県外大手の岡山進出と同じ形で、県下の新しい土地に進出(西大寺、倉敷)することにも発展の道を探っている。「衣料品は格好でなく、セリンスで競争するもの。また、こんどのスーパーは、ダイスプレシのムードづくり、サービス強化が課題」と同社の佐藤輝人専務が話しているように、組織のスーパー五社とチェーン組織をつくり、共同研究、情報交換を行ない、体質改善をめざしている。この組織は、NDC(日本ダイナミックチェーン)と名づけ、フタボ(姫路市、二木一三社長)、いづみや(大坂市、和田源三郎社長)、ハトヤ(大坂市西端行雄社長)、ダイカイ(三重県松茂市、大海泰雄社長)、西川屋(名古屋市、西川長十社長)と福屋の六社で総務、企画、販売、仕入れ、教育の各委員会を設け、月に一回でいご会合を持って研究を進め、指導活動を行なっている。また機関紙「NDC」を発行、おたがいの情報交換と、結びつきの強化をはかっている。

商店街では、スーパー対策として、より魅力ある商店街への脱皮が望まれているが、新しい道を開拓しようという全体の盛り上がりはみられない。「流通革命時代の生きる道は、大量仕入れ、大量販売、早期決済につきる。できれば、販路が中国、九州の業者と手を結んで共同仕入れを行なってもいい」という進歩的な人もある。

百貨店への影響もまぬがれない。しかし「大手スーパーの進出は当然、ある程度は影響は覚悟しているが、百貨店は百貨店営業方針に変わりはないし、大勢に影響はない」(藤原天満屋業務部長の話)とみている。

いずれにしても、スーパー自体、弱小資本の整理統合と、大型化、テラックス化がすすむのとみられ、小売り店の専門店化、協業化が望まれており、このほど発足した県大量仕入れ機構編組への期待は大きい。

# 京阪神急行と提携

## 下電観光開業KKが発足

下電観光開業株式会社（岡山 市東田町、永山一巳社長、資本金五千万円）は、昨年十一月二十七日設立された。

下津井電鉄（岡山市東田町、永山一巳社長）が三千万円、京阪神急行電鉄（本社大阪市北区小林栄三社長、資本金六十七億二千万円）一千万円、その他東洋一千万円の出資によるもので、県外大手企業との資本提携として注目を集めた。

事業としては動物園の開発をはじめ、不動産売買、旅館、貸し別荘、浴場、食堂、海遊、遊覧船などの経営、観光客対象の物品販売、損害保険代理業、自動車損害賠償保険法に基づく保険代理業などを行なう。近く本格的な活動を始めるが、永山社長は「一つの開発事業を軌道に乗せたい」と話している。水島臨海工業地帯の遊覧など異勢振興にも合わせて段階的に開発をすすめた。京阪神急行電鉄側から、取締役の目比達一、山口与一両氏が送り込まれている。役員つぎの通り。

取締役社長 永山一巳、取締役 目比達一、山口与一、山崎、松田基、赤沢野、福武一良、永山久、青柳寿、森末卓男、南冬正一▽監査役 橋本実治、秋山隆英、永山久也

## 新設会社

岡田機械株式会社（岡山市厚生町一丁目八番七号、資本金八〇〇万円）業種 工作機械、飯金機械その他機械工具の販売、

製造、修理。設立38・12・11。取締役 岡部直祐、岡部光宏、川上製、川上五男。

三十三年から開所で監盤、ボイル販売、フライス館などの工作機械の販売を個人商店ではじめてたが、昨年六月に店舗も新しく改造、会社組織で事業規模を拡大することになった。販路は岡山県下をはじめ尾道、坂出、高松などを中小鉄工所へ手広く進出している。

岡山生コン運送株式会社（岡山市江並三四七、資本金五〇〇万円）業種 貨物自動車の運送事業。設立38・12・14。取締役 岡崎慶、吉松嶋、西下賢治。

最近建設業界でブームになっている生コンクリートの運搬を行なう。岡山いすゞ自動車から生コン車十台を購入。現在選下を申請中で、二月中旬ごろから正式に業務をはじめめる予定。岡山生コンクリート株式会社が生コンを運送するもので得來は生コン車も増加する計画。

株式会社大和自動車整備工場（岡山市西島田町四、資本金一〇〇万円）業種 各種自動車の修理、整備。設立38・12・2。代表者 大和春男。

山陽歯科技工株式会社（岡山市四二〇、資本金五〇〇万円）業種 一般歯科技工委託加工材料の販売、代理業務。設立38・12・2。代表者 留安火。株式会社平松組（岡山市東田町四九、資本金五〇万円）業種

電気工事の請け負い。設立38・12・2。代表者 平松正義。常盤産業有限公司（岡山市上西川二〇〇/三、資本金一〇〇万円）業種 学生服、作業服の卸し販売。縫製、布用品の卸し販売。設立38・12・3。代表者 片山真雄。

太陽運輸株式会社（岡山市鹿野三〇、資本金三〇〇万円）業種 貨物自動車運送事業。小型船海運業、港湾運送事業。設立38・12・4。代表者 鹿谷新一。パールファニチャー株式会社（岡山市上石井二七三、資本金一〇〇万円）業種 パールファニチャーなどの製造、仕入れ、販売。設立38・12・5。代表者 洲慶全。

昭和電気産業合資会社（倉敷市神二ノ三、資本金二二〇万円）業種 電気産業ならびに家庭電機施設の施工、販売、修理および電気機具の販売修理。代表者 石井剛。

株式会社島田組（倉敷市水島千鳥町一、資本金二六五万円）業種 総合建設業。代表者 島田政一。

有限会社嶋田商店（倉敷市水島千鳥町一/二、資本金一〇〇万円）業種 機械工具および鋼材の販売。代表者 嶋田千代子。有限会社三菱化成水島工場購買会（倉敷市水島瀬道三丁目、資本金七〇〇万円）業種 生活必需品の卸し販売。代表者 池田保彦。

信和工業株式会社（倉敷市水島島島町一、資本金三〇〇万円）業種 鉄骨構造物の設計並びに施工、製作および配管工事の設計施工。代表者 池田芳平。

株式会社小野漬物商店（倉敷市西中野二〇、資本金三〇〇万円）業種 漬物、味噌類の製造、加工、販売、青果物販売、ビン、カン詰め製品の加工、販売。代表者 小野惠三。

信用★カーピス★夢  
スター★スタンプ。  
本社・徳山市中2-2-2 加藤ビル4階

## 縄張り争いやめよ

☆：「新座都に指定され、これからは本当に瀬戸内海時代がやってくるわけだから、交通業者ももろくに縄張り争いはやめても。と大きく目を開かなければいけません」と岡山財界の長老松田壮三郎岡山電気軌道社長は淡々と語る。鳥取の業者もどんと岡山へ観光バスを乗り入れればいいし、岡山からも米子、鳥取などへどしどし出て行けばいい。それが当然の姿で、お客へのサービスにもなるというのが氏の持論。



☆：岡山財界についても「小數 割馬主義を排することが第一

だ。それに老人はぐつと引こんで、若い者に仕事をやらすことだ。経験不足の面を側から援助するという気持でいいんだよ」となかなか手厳しい批評。

☆：松露散人として昨年夏刊行した随筆「忘れた草」の最後に「五十年走り続けし西鉄も今日を限りと消えて行くなり」と結んでいるが、月へ四十七往復を走りつづけた西鉄への感無量の愛着がしみじみ現われている。鳥山みどり大のファンでもあり、若くはまだ十分。

(岡山電気軌道社長 松田壮三郎氏)

## 頼もしい岡山県

☆：新しく赴任した日銀岡山支店長横山英之氏。「新米支店長です。岡山知識界にとほしいので、これから地元金融、産業界の人たちとできるだけ接触して勉強したい」と思っています。よろしく「評判通り、風厚実直さを感じさせます。」「四年前にくらべて岡山の発展ぶりに驚いています。水島は活気にあふれ、とても頼もしさを感じます」と、早くも岡山研究にスタートル。



☆：広島県石井の出身。東大法学部政治学科を出て日銀に入り、三十年にロンドン駐在参事になり、三十二年本店に帰る

局調査役、文書局総務課長を経て岡山へ。ロンドン駐在をうなずかせるようになかなかの紳士。長身で、まだ青年といった感じのスポーツマン(ゴルフ、バスケット)でもある。

☆：「母が高級が近くなったので来たがっているのですが高脚(八十三歳)で、血圧も高く、寒さが体に悪いので四月ごろ、暖かくなつてから、連れて来たいと思つてます」と愛情の細やかさをのぞかせ。

すべて、躍進する岡山県にビビタリの人。その若さ、積極性に期待したいところ。家族は、母と夫人、二男一女、四十三歳。(日本銀行岡山支店長 横山英之氏)



## 「夢」はつきない

☆：新座都正式指定の吉報に喜色満面の工藤岡山商工会議所会頭。「岡山県府は、新座都の中では群を抜いている。二十世紀後半の日本は、瀬戸内海時代といわれるが、その中心はなんといってもこの岡山だ」といくら誇っても誇り足りないといった表情。

☆：「東京、大阪などの通都都市にみられるような弊害を防ぐために、公害など最初から念頭に置いて、計画的な、太陽と緑と空間のある立派な町づくりをすすめるなければ」と三木知事のオハコを強調する。



☆：夢はつきない。「観光面でも瀬戸内海は、世界的にもすぐれた立地条件に恵まれておりレクリエーションの場としての国際観光の改善にも役立つものと期待している」といい、またこのところが大切と前置きして、「小異を捨てて大同を取るといふ旗印のもとに、県府が一つの市となつてさらに効果的な躍進をはかることを希望している」と、合併問題へ夢をはせる。

(岡山商工会議所連合会長 工藤恒四郎氏)

## 消費生活に奉仕

☆：全国初のケースとして注目のうちに発足した岡山県大蔵大社入社機構協同組合の理事長大島律治氏は、岡山市下石井の事務所(旧県国芸連)の一角で「共同化により、消費生活に奉仕する」と、流通革命の嵐に立ち向かう構えをみせている。



☆：「小売り商業の経営近代化は、個々の力ではどうにもならない。おたがいが理解し合つて、ぜひ立派な組織につくり上げなければ」と堅い決意のほどをのぞかせ、さらに、「それは、組合員の協力一致がぜひ必要」と、組合員の「和」を強調している。

☆：このほど、各専門委員会もでき、具体的な活動を開始したが、「政経一体が基本」というように、なんといっても推進力は、大島理事長をはじめ、副理事長の岡崎芳太郎、安達貫一、加藤与三郎の二氏に、根が深く浸透された専務理事の有元正夫氏。「五人がっちりスタラム組んで、信念を持ってすすめて、必ず業界もついて来られるでしょう」と、大島理事長はいいけるが、この「推進力の和」に希望を寄せたい。(県大蔵大社入社機構協同理事長 大島律治氏)

# 駅前通りへ進出

## 中国銀行 高梁支店を新築

中国銀行（岡山市内山下、守分十町敷）では、このほど高梁市下町一四七、旧高梁南町郵便局跡（駅前通り）の土地六百平方メートルと農地約三百平方メートル、宅地七十平方メートル合計約九百七十平方メートルを総額一千八百余万円で買入れ、これにて現在の高梁支店（岡山下町一四七、赤松博支店長）を移転する計画である。

移転の理由は、現在の支店が大正年間建の建物で手詰めになったこと、当時は中心街にあったが柏崎橋高梁駅の開通により駅付近に中心街が移ったことなどのため、こんどの駅前通り進出となったものである。

守分中銀面取は旧高梁中学の出身で、これまで高梁地区の開発にはとくに力を注いでおり、新築支店も鉄筋二階建て、駐車場つきで倉敷支店級のものが建築される。工費約八千万、本年中には着工の予定。

### 四月に新営業所へ

#### 福山通運岡山営業所

福山通運岡山営業所（岡山市大供中道北九二、大杉幸二所長）では、車両の大増化と幹線の膨張により現営業所が手詰まってきたため、岡市野田千物田三六五・九九番地に一万一千五百五十平方メートルの敷地を約七千万円で買収（三・三平方メートル当たり最低一万六千円、最高五万円）し新営業所の建築を急いでいる。新営業所は福山市の門田組地上により、木筋鉄筋五階建て、延二、二千五百五十七平方メートル、事務所別館鉄筋一階中二階、延百八十九平方メートルで総工費約五千万円。四月末完工とともに新営業所に移転する。

同営業所は月間扱い量九十トン三千万円、車両四十三台、従業員百二十三人。新営業所の完成により荷さばきが円滑になり

業績は一段と向上する。取引銀行広銀。

資生堂岡山販売が新社屋  
資生堂岡山販売株式会社（岡山市西中山下、笠松久男社長）は昨年未から岡山市岩田町一七の万町ガード前に新社屋を建設しているが、三月末ごろ完成の予定。

建物はのべ千五百六十六平方メートル、鉄筋コンクリート三層建て一階は合庫、二階は事務所、三階は事務所と会議室。移転は三月末から四月で、現在の西中山下の社屋は当分そのまま残すことになっている。建設工事は清水建設岡山出張所（岡山市富田町）。

#### 岡山市浦安に整備工場

##### 福田養鶏場が自動車部独立

浦安自動車工業株式会社（岡山市浦安、山上茂吉社長、資本金五百万円）は岡山市浦安の敷地六千六百平方メートル、一月から自動車整備工場の建設に着手した。

工場は六百六十平方メートル、事務所は二百三十一平方メートルで、現在基礎工事を進めており、第一期工事は五月中に完成する予定で、従業員は約三十人。完成すれば岡山トヨタ並みの整備工場となる。

いまだに福田種鶏場にあった自動車整備部を独立させたもので、同種鶏場の自動車三十台の整備をするほか外注も積極的に行なうことになっている。

#### 育種場の建築も

福田種鶏場（岡山市福富三〇八、山上茂吉場長）は検査法の改正にもない近長輸入種用の育種場を建設する。

同種鶏場は二年ほど前からアメリカのキンパー農場と提携しており、百九十八平方メートルの専用育種場を建てたことになったからで、二ヶ別から三ヶ別のヒナを収容する計画。現在用地を農地委員会にかけており、決定すれば二月早々にも着工し、三月

中旬ごろ完成の予定。

### 新工場三月完成へ

#### 小野田セメント阿哲工場

見市正田、中野文雄工場長（新見市正田）は昨年七月から総工費九億七千万円を投じ、工場増設工事を進めていた。新施設は鉄筋コンクリート直径五層、高さ二十五メートルの焼石炭マリーの石炭サイロ、原料倉庫直区三層高サシ粉降機一台増設ほか、正電所の増設、鉄道引込込み（四百基）増設などであり、完成は三月中旬、これにより同工場の生産能力は月産四万五千トンになる。

#### 立地条件が寄与

##### 業績上昇の笹山鋼材機械

笹山鋼材機械株式会社（岡山市白石町鉄上センター内、笹山登社長）は昨年二月、富田町から現在地へ本社を移転、同月から資本金を二千四百万円に倍増増資して機械部を拡充強化、同時に社名（笹山鋼材株式会社）を笹山鋼材機械株式会社と改称している。業績は急激に伸びている。本社移転は、従来の事務所が手詰まってきたこと、鉄工センターは国道二号線と将来実現する岡山バイパスの間にあつて水島との結びつきに有利なこと、さらに鉄工センター各企業への鋼材供給などの理由によるもので、同社の業績部長はこの立地条件の優秀性が大きく寄与している。

機械類の仕入れ先は、三井物産、東京通商、日本鋼管、川鉄ほか各社。得意先は各官公庁、七〇％。広島、鳥取、各県一〇％。鳥取、香川各県五％。決算六月。最近の業績は月商一億三千万円に上っている。当期の売上上げは大層アップする予想。従業員六十九人。取引銀行中銀、富士など。

**力ツク製品スチール**

**美堂**

日用品 事務用品

岡山・下之島（北園）

## 西日本一の車輛整備工場

## 両備バス 岡山市西市で起工式

両備バス(岡山市下石井、松田基社長、資本金一億三千万円)は、岡山市西市の飛道(緑尾一児鳥線)ぞい、西日本一の規模といわれる大型車輛修理工場を建設することになり、二月一日、同所で起工式を行なって、建設に着手した。

建設費一億二千万円をかけ、一万二千二百平方尺の敷き地に修理工場(七千八百平方尺)と仕上げ工場(七百八十平方尺)を建設する(二百三十平方尺)を建設、作業工程はすべて機械化工程管理も集中管理方式により合理化して高効率化をはかる。建て物は、川鉄のテーパーシートを使用。このため、修理工場の場合、幅三十二尺にわたって、柱がなく、広い工場内には常時二十台の大車車が修理を受けられる。

倉敷市昭和町にあった同社の二股車整備自動車工場も同所に移転、同工場では、車体検査から、板金、木工、塗装、エンジン等の再生加工とすべて近代設備によって、スピーディーに行なわれるため、従業員は、約百人で年間五百台の受注を目標にしている。両社のバス三百二十両をはじめ、バス、トラックの外注修理も行なう。

工場建設のテーパーシート

名物

岡山すし  
お魚勝

電話 2553

は、すでに発注済みで、四月末には、操業を始める。

## 本社事務所も改築

両備バスは、このほど本社事務所の下岡山営業所整備工場、倉庫などを改築して、運輸部、資材部、健康保険組合事務所が入居した。これで同本社事務所は二階は総務部、経理部、管理部、調査部、企画部、審査部、労務部などとなった。

## 新鋭工場を建設

## 新興乗車券印刷能力増強

新鋭乗車券印刷株式会社(岡山市島田本町二丁目四ノ一四、藤村百三社長)は、受注増に備えて印刷能力の増大をはかるため同社敷地内に第二工場を建設することになった。新工場は鉄筋、一部二階建て、延七百六十平方尺。大木組の施工で二月一日着工、五月末完成、工費約千三百万円。

同社は第二工場の完成とともに、トッパン課、植字課、製木第一、第二課の四部門を第一工場から移転し、六月末に新鋭全自動オフセット二色刷機一台を第一工場に備えつける。これにより同社の印刷能力は、平坂部門で約四〇%増強される。新工場建設資金は三井銀行を通じて中小企業金融公庫からの借入金をあて、オフセット機械は自己資金でまかなう。

同社の特徴は印刷関係だけでなく、製本部門、紙器部も持っている点で、事業は乗車券関係二分の一、印刷関係二分の一の比率となっている。取り引き先は乗車券関係では大手をのぞく全国約三百の私鉄、バス会社のうち約三十社に上り、その分布は岡

山県(両備、下電、宇野、備北、井笠)を中心に中、四国各県、九州全県、近畿、中部地方に及び、東では静岡県の伊豆箱根鉄道を最前線として東京の業者とせり合っている。

一般印刷では岡山県を中心に徳島、福山、尾道に延び、県下の最大の得意先は天満屋百貨店。また紙器部門ではトムソン機二台により、県下六ゴムはきもの業者のうち、太閤、日新、約鐘、高原、九五の五業者のカーボン(ゴム靴の箱)を一手に引きうけており、さらにチケットや金券類では中国信販が最大の得意先となっている。

資本金八百万円、従業員一九

## 印刷のデパート

書籍・新聞・雑誌  
カーボン・平版・製本

## 株式会社 西尾活版所

岡山市上西川町227  
TEL 65162434

〇人、決算六月。今期は前割を二〇%上回る二億四千万円の売り上げを目標にしている。

## 日本西部急行バス誕生

大阪一下関間の長距離バス運行を目的とする日本西部急行バス株式会社(本社、広島市、松田資本金四千円)は二月十一日設立地会を開き、四月までに免許申請を行ない遅くとも七月ごろには営業を開始する予定である。運行系統は大阪一下関間、広島一大阪間、岡山一下関間の三系統。役員はつぎの通り。

取締役会長 野田誠三(阪神電鉄社長) 社長 伊藤信之(広島電社長) 副社長 松田基(両備バス社長) 林圭介(山陽電鉄社長) 三村二郎(神姫バス社長)

# 「新様式」の店舗建設

西日本相互岡山支店が起工式

西日本相互銀行岡山支店（岡山市西中山山下五ノ三、山本正敬支店長）は、二月一日、岡山市西中山山下の中鉄バス南側の新店舗建設予定地で、森俊雄同銀行社長らが出席して地鎮祭を行ない新店舗建設に着手することになった。

同銀行（本社福岡市、資本金十二億円、森俊雄社長）は、九州、中国に、九十六の支店網を持ち、資金量千十億円、全国相互銀行の中でも、二番目の規模を誇っている。昨年十月、岡山支店を開設し、資金量も順調に伸び、一月末現在の預金残高は、約二十億円といわれる。新店舗は、十一月末には完成、十二月から新店舗で営業を始める。

同店舗の総工費は八千万円。

七百六十平方メートルの敷き地に鉄筋三階建て、のべ面積千二

十六平方メートルのビルと二百六十平方メートルの駐車場（自動車約七十台収容）を建設する。設計、施工は竹中工務店。

一階は、ほとんどもをロビーにする。植え木などを配して公園の雰囲気を持たせた新しい型の営業室で、タイプラリー、テレビ、化粧の各コーナーに、子供のすべり台、貸し金庫を設けるなど、すべてが客本位の設計。一階の従業員は五人位で、受け付けた伝票は、エアーシュタビーで二階に上げられ、事務は、すべて二階で行なわれるというしくみ。三階は、会議室で、一般客にも開放する。

### 三共精粉が新粉砕設備

三共精粉株式会社（新見市高尾、植木弘助社長）は、工費一千五百万円でシュートとコンベヤーを組み合わせた採石設備をこのほど完成した。これは岡

岡山の代表清酒

# 加茂五葉



カモイツハ

河内屋酒店 電話 5714番

市石壁の正田鉱山の傾斜面を利用し、改良ジョークラッシュヤーなどの粗砕設備をつくり、十メートル以下に粉碎した石灰石を鉄管のシュートでコンベヤーで延長二百八十メートル下の県道まで一日、百一十五トン運搬するもの。正田鉱山の石灰石は白色度九五度。カ

ルシウム含有九・五%以上の良質を誇り、炭酸カルシウムと寒水石を製造して東南アジア方面へ輸出、外貨をかせいでいる。

### 半期ごと三〇%アップ

森永商事岡山出張所  
森永商事株式会社岡山出張所（岡山市内山下三〇、池田正清所長）は、昭和三十七年十月に池田所長着任以来全県下における販売網を強化し、異常な業績伸長をみせている。

岡山出張所の販売組織は菓子類が森永会（県下各地の卸業者二十五）とエンゼル会（直売の岡山市内十五小売店）乳製品が六軒の特約店、ジュース、コーヒーなどの食料品は特約店と薬局の二本陣。売り上げ目標は半期ごとに三〇%アップで、岡山出張所は同社全国八十四ヶ所のうち二十四番でいどの好成绩となっている。菓子類のうち伸び率の大きいものは、一昨年秋あたりまではガムだったが、その後はチョコレートがこれに代わって「成長製品」となっているといる。岡山県民一人当たりの消費量は、まだ全国平均を下回っている。県南の新産地建設や各地の地域開発の進展とともに消費量は次第に増大するとして、同出張所ではさらに販売網の強化を計画している。（従業員二十八、取引銀行、勧業、三菱、中銀）

### 尾上整形外科病院開設

尾上整形外科病院（玉島市国道第一ノ一四五、尾上弘倫院長）は二月一日から開院した。新病院はモルタル二階建て、延四百四十四・九平方、病室は十一室二十床、工費九百万円、藤木工務店（倉敷市旭町、藤木正一社長）施工。

## 売上げ全国第三位へ

カモ井食品工業 社名変更、新鋭工場建設

株式会社鴨井商行（倉敷市旭町六六二ノ一八、鴨井正夫社長）は、二月一日から「カモ井食品工業株式会社」に社名変更した。これは従来の同屋カラーをめぐり、こんご食品メーカーとして保存食料の関連新製品の製造に乗り出そう、ということのもので、倉敷を代表する知性派の若い鴨井社長らの積極政策の現われとみられる。

すでに同社は昨年十二月、倉敷市西阿知町之内一三四番地に一万六千平方尺の敷地を確保、新鋭工場の建設を急いでいる。第一期工事は一億円を投下し、鉄筋工場二棟（三千三百平方尺）を五月末までに完成（三月末には一部操業）、最終三期工事までは総計三億八千万円で九千二百平方尺の新工場を建設（昭和四十年完成）、これとともに現在の旭町本社工場を全部新工場へ移転する。

同社の業績は最近急激アップで、昨三年（決算翌三月、年一回）は二億五千万円、三十七年度の十二億四千万円、三十八年は前年度の十二億四千万円を見込まれ、前期配当は九割という高率配当を誇っている。これは昨年一月に新発売した「さきい」とも異常な伸びをみせ、これととも、他の製品の販売量が急激にふえたため、販売額は東は新潟、長野、静岡のライン、西は鹿児島、鳥取、沖縄におよび、業界では帝國食品（東京）、石井食品（船橋市）について全国第三位、とくにスルメ、コンブ製産物は全国でトップの座を占め、次期は十五億円の売り上げを目標としており、新工場建設とともに、本年三月ごろには倍額増資して、新資本金を三千万円にする方針。

役員：取締役社長鴨井正夫、専務鴨井四郎、常務鴨井精一、

取締役松尾求、若林勇、監査役日原丹春の各氏、従業員四百名、取引銀行、中銀、富士。

## 岡野興業が新社屋

美里工場は四月操業

岡野興業株式会社（児島市小川、岡野太郎社長）は、工費五千万円で建築中の新社屋兼倉庫が一月末完成、また小田郡美里町の新工場も四月から操業をはじめ、新社屋は鉄筋コンクリート四階建千四百平方尺、一階事務室、出荷場、機械室。二階応接室、会議室、製品倉庫。三、四階は同倉庫で、出荷場と倉庫をのぞき冷暖房完備のデラックス建物で、さらに別棟鉄筋平屋建百二十平方尺、出荷場木造カラワろき、二階建二百五十平方尺、女子従業員寄宿舎の建設もいそいでいる。

美里町工場は昨年、宇野谷中学校の校舎を買入れ入れたもので、敷地二千平方尺、施設六百六十平方尺、ミシン三十六台、従業員六十人、ズボン専門工場として月産一万六千本、来年第二期工事が完成すれば月産三万本に増産される見込み。

同社は縫製部門がミシン百三十市内に従業員二百五十人、ほか市内に外注三工場を持ち、学生服、作業衣、トレーニングパンツ、ストラップス、防寒衣料などを生産、強力な全国販売網に

より年間売り上げ七億五千万円に上り、織物部門は本社、倉敷工場を合わせ三億五千万円の売り上げとなっている。

## 岡山シャープ組織変え

シャープ電機岡山営業所（岡山山下石井二一三、山本康弘新長）と日電シャープ販売代理店（岡山市四町、波辺進社長）は昨年十二月十五日合併し、同十六日から岡山シャープ販売株式会社（岡山市山下石井二一三、白水利夫社長、資本金八百万円）として発足した。これは流通機構を一本化し、特約店と直結、スムーズな運営をはかるというもので、業務内容はラジオ、テレビなど電器製品の販売で従来通り。社長白水利夫、取締役山本康弘、波辺進、五味三男。なお津山営業所は岡市坪井町一九〇一

## 太陽ゴム販売KK増資

太陽ゴム販売株式会社（岡山市下之町五九、板谷武一社長）は、一月末で資本金三百五十万円を五百万円に増資した。取扱が高が次第にふえ現在、年間一億三千万円に上っているため資本金を是正することになったもの、（従業員二十五人、取引銀行中銀）

## 興亜耐火丸窯二基新設

興亜耐火工業株式会社（岡山県和氣郡備前町穂波、藤田新三郎社長）は昨年同社東側の明石公有水面七千五百六十五平方尺の埋め立てを終え、このほど丸窯二基、重油タンク一基を建設した。

## 移転

山陽いすゞモーター（代表取締役西下賢治、森善六氏）は、一月二十三日、岡山市北方から、岡市高屋字庄田に移転した。光陽商會（塩尻益大社長、資本金百二十万円）は、このほど岡山市弓町から、岡市奥田に移転した。

高級洋品

大島屋

岡山・西大寺町  
TEL05205

## 潮流

## 合同の城つくれ

○：軒況ムードのうちにも、業者の乱立と販売競争の激化で酒造業界にも「企業合同」の大波が押し寄せている。岡山県もその例外ではありませぬよ。と某有力酒造業者はいう。なにしろ県下では百八十六工場の年間生産量がわずかに二万六千二百箱、一醸造場当たり百三十箱の零細企業だ。これがそれぞれ違った銘柄でせり合っているのだから、これじゃ蓋、伏見の大手メーカーの食いものにされるのは知れたことである。銘柄の弱い業者は勢いおけ売りの量をふやし、どうにか採算を維持していくほかはない。県下全生産量のうちビン詰めで県内に販売されているのは約四〇％にすぎないというが、いまのままの乱立状態ではこの量はさらに減っていくことは必至だという。ではどうしてこれを防衛するか。そのモデルは下島だ。すでに大津酒造、津沢酒造、浜尾酒造、一辨酒造、功鶴酒造の五社が同市柏島に下島酒類販路協同組合（代表者大津行雄氏）を設立。昨年十一月から操業しているが、近く共同酒造工場も建設する計画である。日本酒造組合中国支部でも、企業合同への右石として共同販路工場の設置などを強力に進め、業界再編成のテコ入れをする方針を決めた。生きる道はそれしかない。県下百八十六の独立した「酒造城」も、それぞれ連合化、合同化してこそ県外大手の攻撃をはね返すことができるのではないか。

## \*山陽道の4都を結ぶ\*



文化のセンター・お買物センター  
**天天満屋**  
 岡山店・倉敷店・姫路店  
 北島店・岡山合資店

## 謙虚、積極の力

アルプスの麓の城アイガーへ派遣して、自社のスキー服を実験した。その意欲的な反面人前に出るのが嫌という性分で、谷口カモ井加工紙社長らと静かに釣り糸をたれるのが何よりの楽しみ。家内工業をこころまで築き上げたのは、謙虚、積極”ので力あろうか。

○：オーストリアのインスブルックで開かれる国際スキー競技を見学のため、日本選手団とともに一月二十五日、空路渡欧した健康堂社長三宅清之氏（五九）は倉敷市西阿知町。は倉敷出先にさきだつて「みんな風邪をひくな、ひいた子がいたら罰金だ。わしがひいたら払うからな」と見送りに来た従業員に。おせん泣かすな”式のあいさつで一同感激。

○：三宅氏は戦後、なくなった一箇のボールを夜おそくまでさがしている倉工野球選手の姿に感奮して「ツバメ印」野球ボールを作り、甲子園の夢とともにスポーツウェアの生産もはじめ、現在では全国的なメーカー。

○：倉工と対戦した東北高校が甲子園に出るユニフォームがないときき、さつそく二十着分を送ってやったという話も有名。また昨年は社員二人を北



OHYO牛乳



OHYO  
 アイスクリム



## ふえる倒産、不渡り

## 過剰設備投資、放漫経営が主因

最近、企業の倒産が続出しているが金融面では、一月以降五月ごろまで倒産件数はかなりの高水準となり二、三月は継続、建設などを中心に「危機感」はいっそう強まろうとみている。これについて日銀は「金融引き締めには当然つきまもの」として、これを機会に「放漫経営」に反省ムードが起こることを期待しており、また大蔵省は「最近の倒産不渡りの続出は金融引締めの影響というよりは、むしろ長期の見通しを欠いた設備投資など企業の放漫経営の結果によるものが多い」としているが、岡山県下の倒産会社も、その例外ではないようだ。

## 貞森製材整理へ

株式会社貞森製材所（倉敷市大島六一二、貞森智社長、資本金百五十万円）は、昨年十一月十一日不渡り手形を出し負債総額二千五百円で整理に入っているが、二百五十万円の債権者、坂出市の堀田建設などのきも入りでとりあえず、本年一月から「大島製材」として智社長の実父（前社長）貞森寿人氏を代表者に従業員五、六人で木材扱きの貸出業（製物売買は行わず）操業をはじめている。

同社は寿人氏が昭和十五年創業したもので藤木工務店、鉄高組などの取引で業績は年々とも伸び、このため智社長は五百万円の設備投資を行なったが新からの不況に加えて、放漫経営による在庫調整の不備、それに経営者の羨手な私生活などから資金繰りが次第に苦しくなりついに倒産となったもの。

おもな債権者と金額（単位万円）は新見、川添木材（〇〇〇〇）広島、田丸木材（一六〇〇）坂出堀田建設（二五〇〇）福山、松阪林業（二二〇〇）などで、昨年末の債権者会議では智社長は経営能力薄弱として再建についての話し合いがまとまらなかったが堀田建設などが一帯、休止施設を生かして操業させることになったのである。

債権者の川添源氏（新見市法

官）はこれについて「私の債権は、債権者団とは別個に法的に処理する。倒産の原因は智社長に手帳がなかったこと、私生活の乱脈によるものだ」と語っている。

## 備前窯業 土地造成が禍根

備前窯業株式会社（岡山県和気郡備前町御浪三六五四、浦上省光社長、資本金千百万円）は昨年十月百二十万円の不渡り手形を出し一億八千万円の負債で倒産した。同社は耐火煉瓦業者としてかなりの地位を占め、月高二千円程度の売上を計上げてきたが、三十七年夏に約五千万円を投じて海岸線に一万六千余平方尺の土地造成を行ない、新方式の焼成室で操業をはじめた。折からの鉄鋼不況で受注が次第に減ったため多額の資金を固定化させた結果となった。

このため運転資金が枯渇し、高利金融、勝手操作で表面をつくらせてきたがいつに行き詰まりとなったものの、県下のおもな債権者は和気郡日生町、日生畑村（債権額五百七十万円）岡吉永町、共和鉄工（岡百万円）和気郡三石町、大平鉱山（岡百万円）のほか三石鉱山、加藤鉱山、梅乃鉱山など。

## 高瀬製作も行詰る

有限会社高瀬製作所（岡山市郡一二七五、高瀬福一社長）は一月十八日、二十七万円の不渡

り手形を出し行き詰まった。同社は農機具メーカー（浅草橋植製作所など）の再下請けで月商三百五十万円をあげてきたが、事業拡張の行きすぎなどがたつと、苦境に追いこまれたものとみられる。取引銀行、岡山市民信用金庫。

## 弥生鉄工つまずく

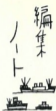
有限会社弥生鉄工所（岡山市東島田、田中辰巳社長、資本金五十万円）は昨年十二月、資本金二十万円の不渡り手形を出し整理に入った。同社は岡山鉄工センター工事で急速に伸びたが、工場や設備機械の増設と昨年の長雨などのため運転資金に窮し、約五千万円の負債となった。債権者は広島相互、浪田鋼材など、昨年十二月の債権者会議で、本年三月まで月一割償還という条件で一応営業を行なっているが最終的な話し合いはおこなってに就かれていない。

## 岡山県下の増資状況

中国財務局岡山山財務部は、このほど三十八年十二月中に同財務部に通知された管内の株式会社を増資状況をまとめた。それによると増資件数は四件、増資総額は二千八百万円、内わけは設備資金千五百七十八万五千円、運転資金千八百四十万円、運転資金を除いた合計は二千七百五十八万五千円となっている。

前年同期は件数は同じく四件だったが、増資額は三件三百万円、内わけは設備資金五百四十八万七千円、運転資金七百三十八万円、借り入れ金返済千九百九十一万三千円で、前年同期にくらべ設備資金、運転資金が大幅に増加している。





○新しい開づくり「瀬戸内海経済開発」が、新産業都市の正式指定によって、いよいよ本格的な前進を始めることになった。

岡山県南地域を中核とする瀬戸内海経済圏は、遠からずして日本産業の輝かしい担い手となるであろう。さる昭和二十六年、三木知事就任らしい着々と進められてきた水島開発が、いまこそここに見事な「最初の果実」を結んだのである。「誇り高き岡山県」のために、だれが拍手を惜むものがあるか。

○だがわれわれは、まだすべての果実をつかんだわけではないのである。新産業都市の建設―地域開発は、これから本番なぞだ。ローマは一日にしてならずという。前途の道はけわしく、なお長い。新産都指定に正体もなく酔いしれることは許されないのである。

○なるほど、すでに岡山県は中国地方の一農業県ではなく「日本産業の将来を背負う岡山県」になっている。ということは、逆にい

山県は全国からわらわっている―という―ことである。経済に、

山県は昭和四十五年の岡山南の工業出荷額は九千億―一兆円、人口は百二十一―三十万人にふくれるとあれば、県外資本が岡山進出の機をうかがうのは当然であろう。

○しかもそれは、岡山県が希望して誘致する企業だけに限りません。既存の地元産業に大きな脅威となる企業も、宝塚岡山をねらうだろう。たとえば、日本のスーパー「ダイエー」の岡山進出も、その一つである。さらに外国飲料メーカーの岡山

●小型ファミリーカーなら!

**プリンスコイライク**

1500ccコックス

1780,000

**山陽プリンス株式会社**

〒700 2800 岡山 1-1-20100

ば、岡山県は全国からわらわっている―という―ことである。経済に、

山県は昭和四十五年の岡山南の工業出荷額は九千億―一兆円、人口は百二十一―三十万人にふくれるとあれば、県外資本が岡山進出の機をうかがうのは当然であろう。

○しかもそれは、岡山県が希望して誘致する企業だけに限りません。既存の地元産業に大きな脅威となる企業も、宝塚岡山をねらうだろう。たとえば、日本のスーパー「ダイエー」の岡山進出も、その一つである。さらに外国飲料メーカーの岡山

社団法人 瀬戸内海経済研究センター

顧問および講師 (二月一日までに承諾済み) 各氏 期不同敬称略す

- |            |         |
|------------|---------|
| 東京大学名誉教授   | 有 沢 一 己 |
| アジア経済研究所長  | 東 畑 精 一 |
| 日本長期信用銀行専務 | 小 川 英 一 |
| 東京都立大学教授   | 磯 村 善 市 |
| 東京女子大学助教授  | 伊 藤 利 清 |
| 経済評論家      | 小 島 善 得 |
| 日銀調査局次長    | 吉 野 俊 彦 |
| 日本大学教授     | 鈴 木 雅 次 |
| 経済団体連合会副会長 | 植 村 甲 午 |
| 岡山大学教授     | 河 野 通 博 |
| 〃          | 久 留 野   |
| 〃          | 水 村 季 郎 |
| 〃          | 久 野 通 博 |

ナンバーワンはいつも合格率最高

**No.1**

いつでも合格率最高

あなたに合格させる!

**倉敷自動車教習所**

倉敷市中央(倉敷駅前) 電話 8889

県乗りこみも、次第にはげしいものになっていくに違いない。

○地元中小企業にとっては、きびしい課題がまだある。「労働力をいかにして確保するか」という問題だ。若年労働者の不足は全国的な現象だが、経済発展が急カーブで上昇する岡山県は一段と深刻化するであろう。

既存の地元中小企業と誘致大企業、さらには押しよせる県外大資本との調整をどうするか―は、きわめて困難な課題である。つまり、経済戦国時代を迎えた岡山県は、それを研究し調査し訴えねばならぬ多くの課題をかかえ込んでいるのだ。


○さて、本誌は岡山県南地区などの新産業都市正式指定とともに、いかえれば岡山県―そして瀬戸内海の「新しい歴史」のスタートとともに誕生した。大企業と中小企業、経営者と労働者、さらに県民のすべてが幸せになれる経済開発を―というのが本誌の念願である。ご愛読、ご支援を願わりますようお願いいたします。



昭和三十一年一月一日発行（毎月）  
一、十二（二十一日発行）  
第一巻 第一号

発行所 一万年 七千二百円  
編集発行人 野田康雄

発行所 法人組  
瀬戸内海経済研究センター  
岡山県 岡山市 内山町 四七  
電話 岡山 086-001-3038

 新三菱重工業株式会社  
水島自動車製作所

三菱ミニカ